

特 248

712

森 師 範 連
保 險 學 第 一 分 册

昭和七年度法政大學講義



始



特 248

712

森 師 講 述

保 險 學

第 一 分 冊

昭 和 七 年 度 法 政 大 學 講 義

特248
712

森
師
講
述

保
險
學

第一分冊



昭和七年度法政大學講義

保 險 學 目 次

第一章	保險ノ性質	一
第二章	危險分散主義	四
第三章	危險可能範圍	七
第四章	被保險者	一五
第五章	保險料	一七
第六章	保險事業ノ種類	二二
保險ノ效用		三三
私營保險業ノ監督		三六

保 險 學

第一章 保險ノ性質

經濟生活ニハ種々ノ事故ヲ生シテ不安ナクセシムルモノデアル、吾人ハ事故ノ予防ニカヲ盡スケレドモ之ヲ絶滅スル事ハ不能デアルカラ、損害發生ノ結果ニ對シテ準備スルヲ要スル、ソノ最モ普通ノ方法ハ貯蓄デアル此所ニ貯蓄ト云フノハ余ノミヲ意味セズ、イヤシクモ收支ノ平均ヲ保タシムル目的ヲ以テ現在ノ剩余ヲ割イテ將來ノ必要ニ備ヘル種々ノ方法ハ、悉ク貯蓄デアル即チ有價證券ノ買入レ不動産ノ所得等ノ如キモ凡テ貯蓄ト見ルベキナリ、併シテ貯蓄ノ本質トシテ個人的ノ設備デアルカラソノ目的ヲ果ス為ニハ相當ノ時ヲ必要トスルノミナラズ偶發的ノ事故ニ備ヘル為ニハ適當ノ標準が見出シ得ラズ例ヘバ火災ノ損害ニ備ヘル為ニ毎年一定額ヲ蓄積スルトシテモソノ損害ノ發生ガ偶然デア
ルガ為ニ何年間ニ之ヲ準備スベキヤ、從ツテカ、ル場合ニハ一層科學的ナ貯蓄ノ方法ヲ考ヘネバナラヌ又此ニ統計學ニ於テ學ンダ通り偶發的ノ事故ノ一ツ一ツ

ヲ觀察スレバ何等ノ秩序又ハ法則ガナイケレド大量觀察即チ多数計算ヲ行ヘバ
大數ノ法則ガ表ハレテ事象ノ生ズル確率ヲ見出し得ルノガ普通デアル、從ツテ
コノ確率ヲ基礎トシテ準備スルナラバ之等ノ事故モ偶然性ヲ失ヒ確實性ヲ得ビ
ル、從ツテ之レヲ基礎トシテ確實ナ準備ヲナシ得ル例ヘバ凡テノ家屋ガ全ク同
一ノ事情ニアリト仮定シテソノ危険率ヲ十分ノ五、ソノ家ノ價ヲ各々一十円デ
アルト仮定スルト百万人が共同ノ準備ヲナス約束ヲシタト仮定スルコノ場合ニ
ハ(十五)×(十五)×(十五) || (十五)ナル計算ニ依ツテ一人ガ五円ヅツヲ提供
スルナラバ(十五)×(十五) || (十五)ノ共同準備財産ガ得ラレル、然
ルニ一年間ニ燃失スル家ハ(十五)×(十五)ノ計算ニ依リテ五十戸デア
ル、ソノ損害額ハ(十五)×(十五) || (十五)ノ計算ニ依リテ五百万円
トナル從ツテコノ損害額ヲ共同ノ準備財産ニ依リテ完全ニ償イ得ル、之レ即チ
保險ナリ、即チ各人ハ五円ノ保険料ヲ負担スル事ニ依リテ仮令損害ガ發生スル
トシテモソノ損害ノ補償ヲ得テ事故ノ生ジナカッタト同ジ状態ニ置カレ之レヲ
單純ナル貯蓄ニ比スレバ保險ハ共同の準備デアル、ソノ損害ニ備ヘル爲ニ時ヲ
要セズ契約ヲ締結シテ一定ノ保険料ヲ払ヒンダンノ時カラ完全ニ準備ヲ爲サレ

テキルシカモ各自ノ負担スベキ保険料ハ比較的小額ノ一定額デアル之レニ依リ
テ火災其ノ他ノ事故ニ依ル偶然の損害ヲ確定的損害ニ変化セシメ得タソノ保
險料ハ六ハバ各人ノ毎年必ズ受ケル損害デアル併シテ之レヲ損害ト考ヘタ場合
ニ於テモ一定ノ少額ナルガ故ニ之レヲ負担スル事ハ極メテ容易デアルカクシテ
保險ハ科學的ナ貯蓄トナル、経済生活ノ安定ヲ得サセル手段トナルモノデアル
保險ヲ一ツノ社会現象トシテ国民经济又ハ社会経済ト云フ見地カラ觀察スルト
共通ノ危険ヲ感じテナル多數ノ経済主体(人々)ガ集ツテ共同基金ヲ作り之レ
ヲ偶然事故ニ依リテ金銭ヲ必要トスル人々ニ分配スルモノト見ル事ヲ得ル從ツ
テ共同基金說又ハ損害分配說ナルモノヲ唱ヘル者アリ、然ルニ保險ヲ個人経済
ノ立場ヨリ見ルトキハ各々ノ経済主体ハ一定ノ保険料ノ負担ニ依リテ事故ノ發
生ニヨル損害ヲ保險事業ノ主体デアル保險会社等ニ轉嫁セシメルモノデアル、
此所ニ損害轉嫁說又ハ危険轉嫁說ガ生ズル從ツテ保險ガ如何ナル場合ニ行ハレ
ルカト云ヘバ偶然ニ生ズル事故ノ爲ニ損害ノ生ズル恐レノアル場合ニ行ハレル
ノデアル、又保險ハ如何ナル方法ヲ行ハレルカハ六ハバ保險料ノ負担即チ有償
的ナ損害轉嫁ノ方法ヲ行ハレル保險ニ依リテ達セントスル目的ハ経済生活ノ安

定ヲ得ル事デアル、ソモノ経済生活ニハ種々ノ危険が存在スル、ソレハ人々ノ経済活動ノ凡ユル方面ニ現ハレテキル、例ヘバ工場主ガ火災ノ危険ニシラサレテキルノニ対シテ火災保険が存在スルトスレバソレハ生産向類デアル、又船舶又ハ積木ノ持主ガ海難ニサラサレル事ニ対シテ海上保険ガアリトスレバソレハ交換(交易)ノ向類デアル又例ヘバ労働者ノ生活ヲ不安ナラシムル病氣、負傷、坐産、喪失、老衰、死亡、失業等ノ危険ニ備ヘル爲ニ各種ノ労働保険アリトスレバソレハ分配ノ向類デアル、又人々ノ家庭生活ノ安全ヲ計ル爲ニ生命保険、火災保険アリトスレバ消費ノ向類トナル、カクノ如ク保険ハ経済生活ノ凡ユル方面ニ於テソノ安定ヲ計ル事ヲ目的トスルモノデアルカラ、今若シ経済学ノ内ニ占メル適當ノ場所ヲ求メルナラバ最初ノ諸論又ハ最終ノ結論ニ於テ経済生活ニ伴フ危険及ビソノ対策トシテ保険ヲ論ズベキモノト考ヘル

第二章 危険分散主義

危険分散主義ハ経済生活ニ於ケル避雷針ノ役目ヲナシ経済生活ヲ安定セシムルモノト云ハレテキル、コ、ニ危険分散ト云フモノハ場合ニ依リテハ危険ノ組合

デアリ危険ノ散布ト見ル事ヲ適當トスル場合アルガ之ヲ總括シテ分散ト名ツク例ヘバ金融業者ガ一方面ニノミ貸付ケテ集中スルト、ソノ債務者ノ経済状態ニヨツテ以テ外ナ損害ヲ蒙ル事ガアルカモ知シナイ、之レニ反シテ若シソノ貸付又ハ投資ヲ多方面ニ分散スルナラバ仮令ソノ一部ニ損害ガアツテモ全体カラ見テ、打撃ハ少ナイダラウ、又一方ニ損害ガアツテ他方ノ利益ト相殺サレテ多数ノ平均ヲ見ルナラバ所謂大数ノ法則ガ働イテ比較的正確ナ但久的ナ成績ヲ得ル等デアル、又例ヘバ、農家ガ一種ノ作物ノミニ全カヲ注ガナイデ或ルベク多種ノ作物ニカヲ注ゲバ之レ又ソノ農家ノ経済ヲ安定セシメ得ルモノデアル、之レ等ノ場合ニ危険分散主義ガ上述ノ如キ効果ヲ齎ラスト云ハレテキル、此所ニ危険分散ノ一ツノ場合トシテ、一人ガ巨額ノ負担ヲナス場合ハ之レヲ多数ノ人(凡テノ条件ヲ等シクスル人々)ガ分担スル場合ニ於テ如何ナル差ヲ見ルカ限及效用説ニヨリテ説明スレバ左図如クナル

上速ニヨレバトハハート十人トテ負担スル場合ノ差ガアル事ヲ示スモノ
 デアル

今若シ此ノ説明ガ正シイトスルナラバ同シ理由ニヨリテ一人ノ人ガ一年ニ一回
 十円ノ損害ヲ蒙ルヨリモ毎年百円宛十年間失フ代リニ十円ノ損害ヲ免シ得ル方
 ガ負担ノ程度ガ輕イダロウト云フ理由ヲ説明シ得ル、然ラバ之レヲ保險ニツイ
 テ曉ルナラバ毎年少額ノ一定額ヲ保險料トシテ負担スル事ニヨリテ一度ニ生ズ
 ル巨額ノ損害ヲ免ル、利益モ諒解シ得ル之レ即チ保險ノ利益即チ長所ヲ明ラカ
 ニ説明スル所ノ事実デアル更ニ進ンデ云ヘバ彼ニ述ブルガ如キ保險事業ノ経営



ニ於テハ再保險又ハ共同保險(分担保險)ニヨレバ危険分散ヲ図ル事ガ保險事
 業時ニ損害保險事業ノ経営ノ上ニ最も大切ナ事デアル又危険分散主義一ツノ應
 用ト見ルヲ得ルモノデアル

第三章 保險ノ可能範圍

如何ナル範圍内ニ於テ保險ガ行ハルルカラ研究スル爲、理論上カラ之レヲ研究
 スレバ、ソモソモ保險ナルモノガ偶然ナ事故ニ因ル損害ニ備ヘルモノナル事及
 ビ吾人ノ活動ガ法律事故ニ因ル損害ニ備ヘルモノナル事及ビ吾人ノ活動ガ法律
 ノ範圍内ニ於テノミ認メラレテキルモノナル事ヲ記述スルナラバ保險ノ可能範
 圍ニハ四ツノ方面カラ制限ガ生ズル、第一ハ事故又ハ危険ノ性質ニ依ル制限デ
 アル保險事故ハ偶然ニ生ズルモノナル事ヲ必要トナス、ソノ中ニハ火災ノヤウ
 ナ、ソノ生ズルヤ否ヤ全ク不明ナモノアリ或ハ人ノ死亡ノ如クソノ時期ノミガ
 不明ノ事モアル、之等ノ場合ニ保險ガ行ハルル、確定的事事故ニ對シテハ保險
 ノ必要ナシ、之ニ對スル準備ハ單純ナル貯蓄ニ因リテ行ハレ得ル故令、之レニ
 對シテ保險ナル名ヲ附スルモ、カノ西洋ニ於ケル減價費却保險ノ如キモノハソ

ノ性質全ク貯蓄デアル、勿論保険ノ中ニモ事故ノ偶然性ニ大小ノ差ガアル、例
ヘバ火災、地震、戦争ノ如キハソノ生ズル事大々偶然的デアル之ニ反シテ何オ
マデ生存スルトホフガ如キハ偶然性ノ少ナイモノデアル、従ツテ前者ニ対スル
保険ハ保険トシテノ性質ガ濃厚デアル之ニ反シテ后者ニ対スル保険ノ如キハ
保険ラシクナイ併シ乍ソノ間ニ多少ナリトモ偶然性ヲナスガ故ニ尙保險ナル事
ヲ免レズ

序ニハ經濟上ノ制限デアル保險ハ經濟上ノ制度デアルカラ財産上ノ損害ニ対シ
テノミ行ヒ得ルモノデアル、物ニ対スル保險ガ金銭上ノ損害ニ対スルモノナル
事ハ直ニ明ラカナリ仮令人身ニ関スル保險デアツテモ其ハ金銭上ノ損害ニ対シ
テ行ハレルモノデアル例ヘバ死亡ノ保險ハソノ人ノ經濟價值即チ所得能力ノ喪
失ニ対シテ備ヘルモノデアル、換言スレバ遺族ノ生活費ノ爲ニスル保險デアル
或ハ之レヲ以テ葬費又ハ相続税ノ支払ニ當テル目的デアルナラバ之レ又金銭ノ
夫出即チ或ル意味ニ於ケル損害ニ対スル保險ト考フルベキデアル或ハ祝賀ノ費
用ニ備ヘル爲ノ生存保險ノ如キモ要スルニ金銭ノ支出即チ損害ニ備ヘルモノデ
アル之レニ反シテ精神上ノ損害例ヘバ名誉、苦痛等ニ対シテハ保險ヲ行ヒ得ズ

例ヘバ一ツノモノガ火災ニ因リテソノ經濟價值ヲ失フ事ニ対シテハ火災保險ガ
ソノ損害ヲ填補スルガ仮ニソノ物品ガ特別ノ道德的價值ヲ有スルガ如キ場合ニ
対シテ保險ニテハ如何トモ爲シ得ズ又例ヘバ病疾保險ハ医療及ビ生活ノ費用ヲ
與ヘル爲ニ用ヒラルルガ之レガ爲ニ身体又ハ精神ノ苦痛ハコノ保險ニ因リ如何
トモ爲シ難イ従ツテ商法ニハ乘ニ「金銭ニ見積リ得ベキ利息関係ニ於テノミ保
險ガ行ハレ得ル」ヲ規定シテ其ノ一方カラ見レバ明ナルモ他方ニハ保險ヲ
單ニ賭博又ハ救済ノ目的ニ濫用スル事ヲ防グ爲ノ規定デアル、此所ニ留意スベ
キ事ハ人ニ関スル保險ガ財産上ノ損害ニ対スルモノナリトホフ事ニ就イテ非難
スル者ガアルガソレハ要スルニ文字ノ上ノ争デアツテソノ精神ニ於テハ差異ア
ルニアラズ何トナレバ人ノ死亡又ハ生存ヲ機会トシテ金銭ヲ必要トスルガ故ニ
之レニ対スル準備ヲスル保險デアルコノ金銭上ノ需要ハ即チソノ經濟主体ノ計
算ニ於テ免ニ角支出ヲ必要トスル事デアリ即チ或ル意味ニ於ケル損害デアルカ
ラ之レヲ損害ト云フ事ハ少シモ差支ヘガナイト思フ殊ニ保險ノ發達ヲ見ルト先
ヅ物ニ対スル保險ガ行ハレル保險ト云ヘバ即チ損害ニ対スル準備ト考ヘラレテ
キタノデアル之レガ寧ロ保險ノ本質デアル然ルニソノ左ニ至リ同一ノ理法ヲ人

ニモ及ボシテ並ニ生命保険、疾病保険等が行ハルルニ至ツタコノ場合ニ前述ノ如ク例ヘバ祝賀ノ費用ヲ損害ト云フ事ハ損害ナル文字ノ本来ノ意味ニ於テ稍マ不適當カモ知シナイ併シ尔元未保険ハ損害填補ノ制度トシテ発達シテ未タモノデアル事ヲ考慮シテソノ損害ノ意味ヲ稍広義ニ解スルナラバ金銭ノ支出ノ凡テノ場合ガ之レニ合スル事トナル從テ生命保険ノ如キモ等シク経済上ノ損害ニ對スル保険デアルト説明スル事ガ適當ナリト思惟ス一言附加スル事ガアル保險ハ副産物トシテ精神上ノ効果ヲ生ズル事ガアル例ヘバ保險ヲ契約シタカラ將來ハ安心デアルト云フガ如キ慰安ヲ覺エル事モアル或ハ精神的意義ヲ有スルモノガ燒ケタトキニ保險金ヲ得テセメテハソノ経済上ノ損害ヲ償ヒ得タカラ幾ラカ慰ムルニ足ルト云フガ如キ事アリ併シ之レハ保險ノ副作用デアツテ之レガ保險ノ主タル目的デハナイ

才三ハ技術上ノ制限デアル保險ハ有償的ニ行ハルルモノナルガ故ニ保險料ノ計算ヲ必要トスルソノ計算ニハ危險ノ発生スル確率 (Probability) ヲ数字的ニ計算スル事ガ必要デアル但シ大体ノ見込ヲ以テ足ルノデアツテ多少ノ欠点ハ危險分散主義ノ應用ニ因リテ之ヲ補ヒ得ル事公衆保險ヤ海上保險ノ突例ニ依ツテ

モ明ラカデアル之レハ後ノ説明ニ譲ル

才四ハ法律上ノ制限デアル例ヘバ民法九〇条商法三八五条商四二八条ノ如キハ保險ニ加ヘラレタ法律上ノ制限デアルコノ外保險業者ニ對シテハ更ニ保險業法ノ制限モアルカクノ如ク四ツノ方面カラ理論上ノ制限ヲ受ケテキルコノ範圍内ニ於テ保險ヲ実行セントスルニ當ツテソレガ容易ニ行ヒ得ルカ或ハ甚ダ困難ナルカト云フ事即チ保險実行ノ難易ヲ見ルト前述ノ統計的ノ基礎ガ充分デアル場合ソノ実行ハ容易デアルソモソモ保險ハ大數ノ法則又ハ平均ノ法則ノ一ツノ應用デアルコノ場合ニ注意スベキ事ハ(1)平均ノ法則ハ多數ノ場合ヲ取ツテ測ベル事ニ依ツテ始メテ得ラルル法則デアル事 (2)ソノ材料ガ多ケレバ大イ程平均數ノ價值ガ大キイ事 (3)各々ノ材料ガ平均數カラ離レル差ガ少ナケレバ少ナイ程平均數ノ價值ガ大キイ事 (4)觀察(調査)ガ正確デアレバ從ツテ其ノ平均數ノ價值ガ大キイ事等ヲ特ニ注意スルヲ要ス、コノ点カラ推察シテ突例ニ就イテ見ルト例ヘバ事故ガ一地方ニミ限ラレテ生ズルモノ又ハ保險物ノ數ガ少ナイ場合ノ如キ事故ノ発生度數ノ不規則ナモノ、事故ニ依ル損害ノ大少ノ差ノ甚シイモノ、事故發生ノ事實ノ確ニ認め難イモノ、損害額ノ決定シ難イモノ事故發生

一人ノ意思ニ依リテ左右シ易イモノ等ハ刑ニ違ベタ(2)(3)(4)ノ点ニ照シテ保險ノ
実行が困難ナル、ソノ反対ノ場合ハ統計が取り易イ而モ之レニ依ツテ計算ス
レバ確率が正確ナルカラ保險が実行シ易イノデアル更ニ之レヲ具体的ニ云ヘ
バ生命保險ノ如キハ最も実行シ易イ火災保險、海上保險ノ如キハ種々ノ欠点ガ
アルカラ例ヘバ共同保險ノ如キ特殊ノ保險事實ニ依リテソノ欠点ヲ補フ事ガ必
要ナル又例ヘバ失業保險、疾病保險ノ如キハ事故が確認シ難イモノナルカ
ラ職業紹介所又ハ病院ノ如キ補助機関ヲ必要トスルノデアルカクノ如クニシテ
保險が実地ニ行ハレ得ルノデアル、保險事業ハソノ性質上大規模ノ組織ニ於テ
行ハルルモノナルガ、ソノ保險ノ全体即チ、保險者ニハ財政上ノ確ナ基礎ト
存統スベキ企業組織トヲ要ス、故ニ我が保險業法亦ニ是ニ於テ保險事業ハ株式
会社又ハ相互会社ニ非ザレバ之ヲ行フ事ヲ得ズト定メテキル株式会社ガ之ノ
事業ヲ営ム事ハ他ノ事業ニ於ケルト殆ンド異リナイ故ニソノ詳細ハ商法ニ就イ
テ研究スベキモノトス、唯保險業法ニ多少ノ特別規定ノ存スル事ニ注意スルヲ
要スル、之レニ反シテ相互会社ト云フ組織ハ保險事業ニ特有ノモノナルデアル保
險業法ニ詳シク規定ガアル、之レハ大伴産業組合ト同ジク共同主義ナル精神ニ

基イテ団体相互ノ利益ヲ目的トスル社団法人デアル、今此レヲ株式会社ト比較
スルト相互会社ニハ株主ガナイ、但シ事業ヲ営ムニ必要ナル資金ヲ基金拠出者
ニ求ム、之ノモノハ株式ト異ツテ会社ノ事業ニ参加スルノ権利ヲ有セズ、本ハ
バ会社ニ対スル債権者ニ過ギ又單ニ一定ノ利息ヲ得ルズハ興味ガナイカラ多
クノ会社ニ於テハ之レニ対シテ特別配当ヲ行ヒ之ノ点ニ於テソノ興味ヲ誘フテ
キマス併シ相互会社ニ於テハ開業ノ初期ニ於テハ基金ヲ必要トシマスガシキニ
涉ツテハ之ヲ必要トシマセン從ツテ毎年ノ剰余金ノ中カラ次者ニ之レヲ銷却シ
テ遂ニ基金拠出者無キヲ理想ト致ス、亦ニ株式会社ニアツテハ株主ト保險契
約者トハ何等ノ関係ガナイガ相互会社ニアツテハ保險契約者ガ即チ社員トナツ
テ会社ノ事務ニ参加シソノ代表者ヲ通ジテ社員代表者會議ヲ組織スルノデアル
コ、ニ社員ト云フノハ事務員ノ意味デハナクソノ団体ノ構成分子ヲ意味スルノ
デアル我が國ノ私營保險業監督法即チ保險業法が認めラレテキル保險者ハ右ノ
ニ種デアル然ルニ此ノ外ニ特別ノ事情ニ依ツテ認めラレテキル保險者ガ若干ア
ルソノ一ハ國家デアツテ現在我が國ニ於テハ逓信省ニ於テハ簡易生命保險及ビ
郵便年金ヲ行ヒ内務省ニ於テハ健康保險及ビ労働者災害責任保險ヲ行ヒ農林省

ニ於テハ家畜保險ヲ行ヒ朝鮮總督府ニ於テハ簡易生命保險ヲ行ツテキル之等ハ
 何レモ特別法ニソノ基礎ヲ置クノデアル
 才ニニハ外國保險業者デアツテ之レハ保險業法ノ規定ニ依ツテ委任命令トシテ
 外國保險会社ニ開スル件トテ勅令ガアル、之レニ依ルト外國ニ於テ保險事業
 ヲ許サレテキルモノガ我が國ニ支店又ハ出張所ニ於イテ營業スルモノハ必ズシ
 テ株式会社又ハ相互会社タル事ヲ必要トセズ、主務官廳ノ認可ガアレバヨイ事
 ニナツテキル、之レハ實際上ノ必要カラ出タ事デアツテ夫々ノ本國ニ於テ正當
 ニ營業シテキルモノヲ我が國ニ於テ必ズシモ之レヲ拒ム必要ガナイカラデアル
 才ニニハ官業ニ附屬シテ設ケラレタル共済組合デアツテ鐵道省現業員共済組合ヲ
 始メ十數例ニ及ンデキル之等ハ政府ガ事業主トシテソノ使用人ノ福利増進ノ施
 設トシテ設ケラレタモノデアツテ一般ノ保險事業デハナイ從ツテ之等ハ何レモ
 勅令ヲ基礎トシテ設立サレテキル之レハ決シテ保險業法ト云フ法律ノ例外ヲ勅
 令デ認メタノデハナク單ニ僱主ノ福利施設ニ違ギナイノデアル
 才四ハ特別法ニ依ツテ認メラレタ小規模ノ組合ガ現ニ一種アリ一ハ健康保險組
 合デアツテ之レハ工場若シクハ鉱山ニ存シテキタ組合ヲ改造シテ之レニ政府ノ

認可ヲ得タ場合独立ノ法人トシ組合員ガ自治的ニ健康保險ノ事務ヲ行フ事ヲ認
 メラレテキル之レハ政府ノ健康保險ニ付スル一ツノ例外デアルソノニハ家畜保
 險組合デアツテ前述ノ政府ノ家畜保險事業ノ才一次的ノモノデアアル
 才五ニ時トシテハ一ツノ団体ノ中ニ共済組合又ハ類似ノ名ニ依ツテ相互扶助ノ
 團結ヲナシテキル事ガアル、之レハ實際ニ於テ保險デアルガ若シソレガ一ツノ
 事業ノ附屬事業トシテ団体員相互ノ福利施設ニ由ル場合ニハ政府ハ之レヲ承認
 シテキル所シ時トシテハ一概世人ヲ対象トシテ此ノ種ノ業務ヲ行ツテキルモノ
 ガアル、之ノ場合ニハ保險業法ノ違反トシテ禁止シテキル之レハ保
 險事業ガソノ財取ノ確実ト企業ノ存続性ノ必要トニ鑑ミテ之等ノ用件ヲ具ヘナ
 イ小規模ノモノガ世人ニ與ヘル害毒アルヲ以テ禁止シテキル

第四章 被保險者

保險トハ保險契約ヲスルモノデアアルカラ一方ニ保險ヲ引キ受ケル被保險者ガアリ
 他方ニハ相手方タル被保險者ガアル、之レハ保險料ヲ支払フ代リニ保險給付ヲ
 受クル権利ヲ有スル者デアアルコノ意味ニ於ケル被保險者ハ左義ノモノデアアル、

我が国ノ商法ソノ他保険契約ヲ規定シタ法律ニ於テハ之レヲ更ニ細別シテキル
尤モ同一人ガニツ以上ノ資格ヲ兼ネル事ハ防ゲナイガ今商法ノ規定ヲ見ルト生
命保険契約ニ関シテハ

一、 保険契約者 之レハ、保険契約締結ノ時ニ当事者トナリ、保険料支払ノ責ヲ負
フモノデアル

二、 被保険者 之レハソノ人ノ生死ニ関シテ保険契約ヲ行ハル、者ヲ云フ

三、 保険金受取人 之レハ、保険契約ニ依ル受益者デアル

然ルニ損害保険契約ニ於テハ

一、 保険契約者 之レハ、前述ノト全一デアル

二、 之レニ当ル者ナシ 蓋イテ云フナラバ商法四〇四条ニ云フ所ノ、保険ノ目的
即チ被保険物ヲ指ス

三、 被保険者 之レガ、保険契約ノ受益者デアル

之レニ依ツテ見ルト被保険者ト云フ文字ガ広義ノ意味ノ中デ特ニ限定シタ意味
ニ用ヒラレテキル(二)ノ意味ニ用ヒル生命保険ニ対シ損害保険ニ於テハ(三)ノ意
味ニ用ヒラレテキル、要スルニ商法ソノ他ノ保険契約法ハ唯法律ノ解釈上便利

ナル名称ヲ用ヒタルニ違ギナイノデアル然ツテ保険ヲ経済ノ方面カラ研究スル
ニ当リ必ズシモ斯ノ如キ用法ニ拘泥スル必要ハナイ特ニソノ必要ヲ認メタ場合
ニハ広義ノ被保険者ヲ斯クノ如ク種々ニ分類スルモ適當デアルガ、一般的ニ云
フナラバ被保険者ト云フ文字ヲ広義ニ用フレバ被保険者ト対立スル相手方ヲ指ス
事ガ便利デアル、唯参考ノ為ニ法律ノ上ニ現ハレタル一、二ノ例ヲ云フト郵便
年金ニ於テハ被保険者ト受益者トヲ同一人トナシ之レヲ年金収者ト名ヅケ
テキル、之レハ生命保険契約法ニ対スル一ノ例外デアル又後述スル如キ生命保
険ニモ非ズ損害保険ニモ非ザルオ三種ノ保険ニアツテハ、商法ニ應ジテ適當ノ
用語ヲ定メネバナラヌ又實際ニ於テ傷害保険会社ノ約款ニ於テハ被保険者ト云フ
文字ヲ生命保険ノソレト同ジク用ヒテキル又健康保険ノ如キ公法關係ニアツテ
ハ必ズシモ私的契約ト同一ノモノヲ用アル事モ出来ナイカラ必要ニ應ジテ夫々
適當ナル用語ヲ用ヒテキル

第五章 保険料

経済学ニ於テ保険料ト云フナラバ保険事業ノ対價即チ危険負担ノ対價デアル、

例へば担保付貸付ト無担保付貸付間ニ利子ノ差ガアルナラバ之レハ支払不能ニ付
 スル保険料ガ此ノ差ガ生ゼシムルコトアレハ或ハ避暑地ノ家賃ガ特ニ高イ所以
 ハ季節以外ニ空家トナツテキル危険ヲ家賃ヲ取り得ナイ危険ニ対スル保険料
 ヲ含ンデキルト考ヘラレルソノ他同様ノ性質ノ現象ハ非常ニ多ク保険料ト云フ
 思想ヲ以テ解釈シ得ル経済現象ガ少カラズアルノデアル、而シテ保険學ニ於テ
 保険料ト名ヅクルモノハ勿論之レヨリ狭イノデアツテ被保険者又ハ之ト同一ノ
 地位ニ立テル者ガ保険ノ費用ニ当テル為ニ保険契約上又ハ法律上ノ義務トシテ
 保険ニ提供スル金額ヲ保険料ト云フ即チ被保険者ハ元来自分ガ負担スベキ危険
 ヲ被保険者ニ転嫁ノ時價トシテ危険ノ程度ニ相当スル金額ヲ被保険者ニ與ヘルノデ
 アル、但シ強制的ナ保険ニアツテハ保険法ノ規定ニ依リ一定ノ負担ヲ命ゼラレ
 テキル、之レヲ反対ニ被保険者ノ側カラ云フナラバ保険法ノ規定ニ依リ一定ノ負
 担ヲ命ゼラレテキル之レト反対ニ被保険者ノ側カラ云フナラバ被保険者ニ一定ノ場
 合ニ保険給付ナス義務即チ危険ヲ引キ受ケル者デアルカラソノ対價トシテ危険ノ
 度ニ應ジタ金額ヲ被保険者カラ受取ルモノデアル、此所ニ危険ノ度ト云フタノ
 ハ被保険対價ト之レニ対スル危険率トノ相乘積ト云フ事勿論デアル而シテ

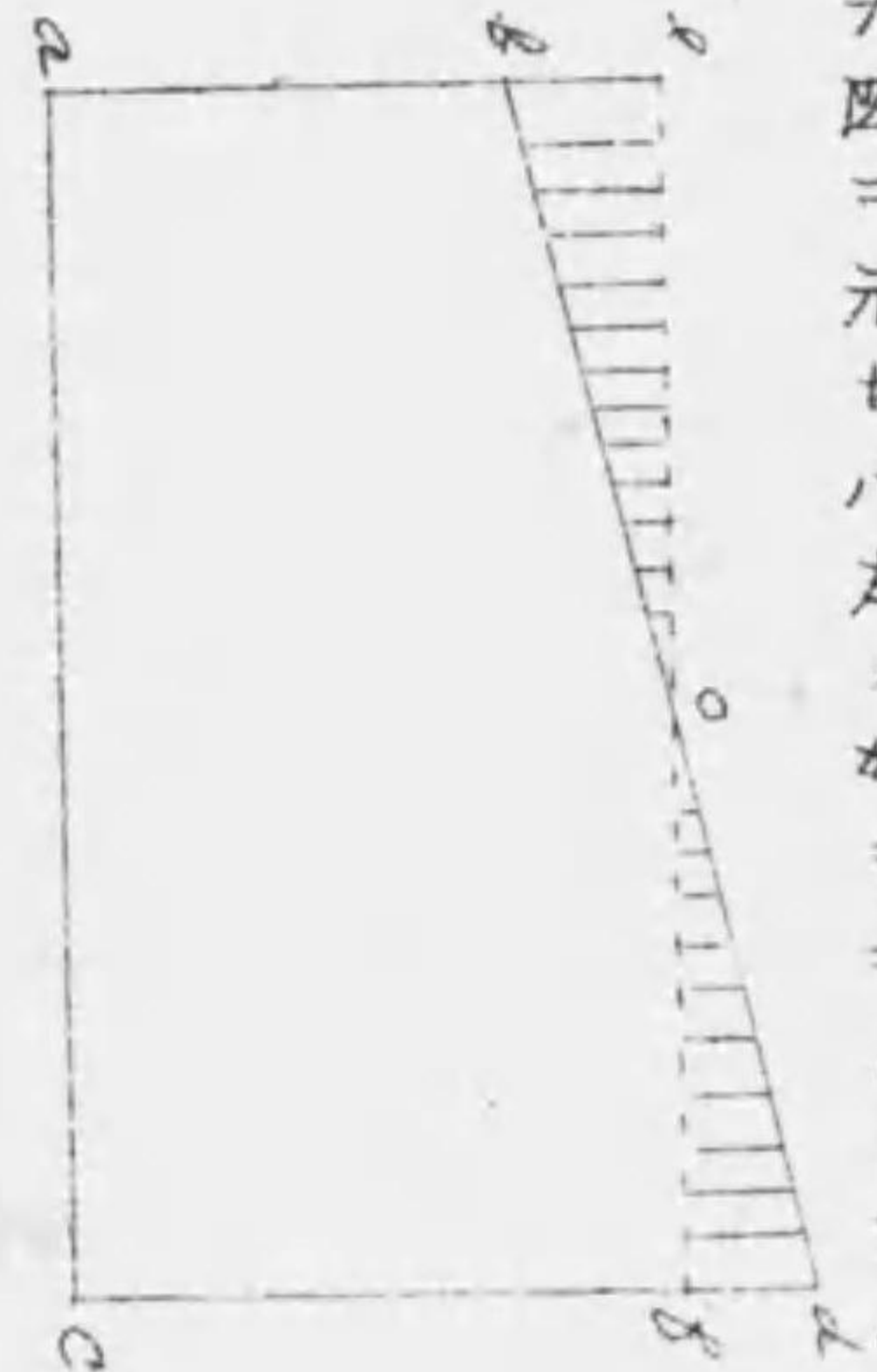
保険料ノ負担者ハ被保険者デアル事原則デアルガ社会保険(労働保険)ノ如キ
 ニアリテハ被保険者以外ニ或ハソノ傭主或ハ国家ソノ他ノ公法人ガ保険料ノ一
 部ヲ負担スル事無キニ非ズ、從テ上述ノ定義ニ於テ被保険者又ハ之レト同ジ地位
 ニ立ツ者ト云フ語ヲ用ヒタノデアル、但シ被保険者ノ負担スル者ト云モ、保険
 料ノ支拂利息或ハ還反費或ハ法律違反ニ対スル罰金費ノ如キハ保険ノ費用ニ當
 テル為ニ徴收サル、ノデナイカラ保険料デハナイ要スル保険料トハ上述ノ如キ
 モノヲ指シテ云フ、ソレテ實際保険事業ガ私的企業トシテ行ハルルニ當ツテハ
 保険ガ恰モ一種ノ無形ノ財貨トシテ取扱ハレテキル、斯クノ如クナレバ保険料
 ハ保険ナル一種ノ商品ヲ買入レル代價ナリト見ル事ガ出来ル保険料ハ保険金額
 ノミナラズ危険率ニ依リテ異ナル事ガ普通デアル斯クノ如ク等級ヲ定メテ例ヘ
 バ木造家屋ト石造家屋ト火災保険率ヲ異ニシ或ハ又老幼ニ依リテ生命保険ノ料
 率ヲ異ニスル、併シ下時トシテハソノ危険率ノ差ガ余リ甚シカラズ從ツテ事務
 扱ヒノ便宜上ノ保険料ヲ以テスル事ガマル但シ此ノ場合後述スル並選扱ヲ經
 ケル事ニ適當ノ注意ヲ払フ事ヲ要スル
 保険料ヲ定額保険料トシテ一定ノ保険料ヲ以テ被保険者ガ保険ヲ受合フ事ガアル

一 故ニ營業トシテ行ハルル保險ハ此ノ方法ヲ採ツテキル、而シテ時トシテハ不
定額保險料ノ方法即チ相互式保險料ノ方法ニ依ツテ必要ナル保險料ヲ商保者ノ
間ニ分担セシムル如キ方法ヲ採ル事ガアル此レハ比較的ノ小サク且ツ道徳的色彩
ノ濃厚ノ因由ニ於テ行ハルルモノデアアル而シテ不定額トハ云フモノノ若シソノ
保險ガ多數ノ人ニ對シテ行ハルルナラバ所謂大數ノ法則ガ働イテソノ負担額ニ
着シイ差ヲ生ジナイ此所ニ注意スベキハ或ル種ノ保險ニ於テ利益配當若シク
ハ保險料ノ払ヒ戻シト云フガ如キ方法ヲ採ツテキル事デアアル、ソノ詳細ハコノ
会社ニ就イテ觀察スル事ガ必要デアアルケレドモ大体ニ於テ之レヲ見レバ必要以
上ノ保險料ヲ予メ徴收シテ彼ニ之レヲ返還スルト云フガ如キ場合ガ最も多イノ
デアアル、從ツテ相互式保險料ノ外觀ヲ呈スル事ガアルケレドモ實際何レニ屬ス
ルカハ斷言出来ナイ

保險ノ實際的費用ニ當テン爲ニ必要ナル保險料ノ部分ヲ純保險料ト云フ即チ保
險ノ原價トモ見ルベキモノデアツテ危險負担ノ対價デアリ保險金支払ノ爲ニ必
要トスル金額ヲ云フ然ルニ保險事業ヲ営ム爲ニハ種々ナル費用ヲ必要トス之レ
ニ當テン爲ニ必要トスル保險料ノ部分ヲ附加保險料ト云フ通常被保險者ガ負担

スル保險料ハ此ノニ要點ヲ合セタモノデ之レヲ總保險料又ハ營業保險料、表定
保險料ト云フ此保險料ハ危險ニ對スル統計的ナ研究ニ依リテ見出し得ル併シ之
レガ正確ニ知り得ラル、モノハ生命保險ヲ如クモ、三ノ保險ニ限ル之レニ及シ
火災、海上保險ノ如キモノニアリテハソノ危險ニ對スル研究ガ不完全デアリマ
スコレハソノ危險ノ性質ガ過激性ヲ有スル事ガ大ナルガ爲デアアル、從ツテ此ノ
種ノ保險ニアツテハ此保險料ノ計算ガ極メテ概念的ニ云ハバ推測ニ依ツテ之レ
ヲ定メテキル状態ニアル次ニ附加保險料ノ部分ニ就イテハソノ性質ヲ分析シマ
スト保險金額又ハ保險料ノ額ニ比例シテ必要トセラルルモノト一ツノ契約ニ就
イテ一定ニ必要ノモノトアル從ツテ此ノ點ヲ考慮シ適當ナル附加ヲナスベキデ
アルソレ故ニ生命保險ソノ他ニ、三ノモノニアツテハ正確ニ此保險料ヲ計算シ
之レニ複雜ナル公式ニ依ツテ事業費ヲ附加シテキル之レニ及シ火災保險海上保
險ニアツテハ前述ノ結果トシテ大体ノ見積リニ依ツテ總保險料ヲ決定シテキル
ト見テ大差ナイ、保險料ハ(淨額) × (係數) || (乘率) ナル公式ニ依
ツテ計算し得ル、何トナレバ例ヘバ火災保險ニ於テ危險率ガ $\frac{1000}{1000}$ デアルト云フ
事ガ千個ノ中一年間ニヒテ火災ケルト云フ事ヲ示シテキル而シテ被害者モ人ニ

一定ノ保険金ヲ與ヘルガ爲ニ必要トスル費用ヲ一人ノ被保険者ガ分担スルモ
 ノデアルカラ上ノ公式ガ成立スル此ノ場合注意スベキ事ハ危險ノ性質ノニアル
 事デアル火災ノ年海難ノ年ノ如キハ年々大差ヲ生ジナイ斯ノ如キ不動的危險ニ
 ハ上ノ公式ヲソノ適用シテモ差支ナイ、之レニ反シ例ヘバ人ノ死亡年ノ如キ
 動的危險率ニ對シテハ上ノ公式ニ依ツテ計算スレバ一年毎ニ保險料が高クナツ
 テ来ル而シテ最末ニ殆ンド禁止的ナ高率ニナル斯ノ如キ保險料ヲ自然保險料ト云
 フ、之レハ實際上甚ダ不便デアルカラ複雑ナル保險数字ヲ用ヒテ全体ノ保險料
 ヲ毎年同額ノモノニヒキナホシテ徴収スルノガ普通ニナツテキル之レヲ平準保
 險ト云フ之ヲ因ニ示セバ左ノ如キモノトナル



$abcd = \text{四流和算}$
 $abco = adbo$
 $acbg = \text{七年保費算}$

コノ因ニ於テ明カナル如ク保險会社ハ契約后数年間ハ必要以上ノ保險料ヲ取ツ
 テ△ δ ノ部分ヲ契約者ノ爲ニ保管シテキル之レガ後ニ差ベル責任準備金デ
 アル、而シテ他日保險料ガ不足ヲ告グルニソノ不足ニ当ル△ δ ノ前ノ剰余
 金ヲ以テ補ハントスル、コノ方法ハ生命保險ニ於テ一般ニ採用セラレテキル

第六章 保險事業ノ種類

我が國ノ商法ハ保險契約ニ就イテ生命保險契約ト損害保險契約トニ區別シテ
 ル、商法三三四条及三六五ニ条ニ依ルト損害保險契約トハ一定ノ事項ニ依リテ
 實際生ジタル損害ヲ填補スル契約デアル又商法四二七ニ条ニ依ルト人ノ死亡又ハ
 生存ニ関シテ一定ノ金額ヲ與ヘル契約デアル我が商法ハコノ二種ノ契約ニツイ
 テ法律關係ヲ規定スルニ止マリコレ以外ノオニ種ノ保險ニツイテハ何等特別ノ
 規定ガナイ又別ニ保險事業ノ監督法デアル保險業法ヲ四二条ヲ見ルト生命保險事
 業ト損害保險事業トハ同一ノ会社が兼ネル事ヲ得ズト定メテキル、之又商法ノ
 規定ト關係アル事デアツテオニ種ノ保險ニツイテハ特別ノ規定ガナイ今之レ等
 ノ法律ガ如何ナル標準ニ依リテ之等ノ區別ヲ認メタノデアルカト云フニ先ヅ商

法ニツイテ云フト保険契約関係ニ於テ一定ノ事故が生ジタ場合ソノ損害ヲ填補
スルト云フ契約例ヘバ火災保険、海上保険ト人ノ生死ニ関シテ一定ノ金額ヲ支
払フト云フ契約トノ間ニハ種々ノ点ニ於テ契約関係ニ差ヲ生ズルノミナラズ実
際世ノ中ニ於テ行ハレテキル保険契約ニ於テコノニ種ノモノガ最も重要ナモノ
ナル故之レヲ規定シタノデアル然ツテ亦三種ノ保険ノ存在ヲ否定シテキル意味
デハナイ、必要ノ場合ニハ之等ニ種ノ契約関係ヨリ夫推シテ之レヲ定メ得ルト
考ヘタル故ニ商法ニ規定ヲ設ケナカツタモノト思ハレル、又政府ガ民業ヲ監督
スルニ当ツテハ生命保険事業ノ如ク長期ニ亘ル契約ニシテ悉モ前述ノ如ク多額
ノ責任準備金ヲ被保険者ノ為ニ保管シテ置ク所ノ生命保険事業ハソノ事業ノ経
営特ニ投資ニ関シテ特別ノ注意ヲ払ハシムル必要アル故ニコノ種ノ事業ヲ火災
海上保険ノ如キ機械的性質ヲ帯ビタ事業カラ全ク独立セシメント考ヘタノデア
ル、然ツテ亦三種ノ保険事業ニツイテハ實際上ノソノ性質ヲ調べテニ種ノ会社
ノ中何レカラシテ之レヲ兼営スルヲ許シテキル例ヘバ徴兵保険ハ大體ニ於テ生
命保険ヲ根本トシ之レニ入管ト云フ条件ヲ附加シ止マルカラ生保会社が之レヲ

併セ管シテキル又例ヘバ傷害保険ハ生命ニ非ザル事項ヲカナルガ又損害保険ノ
如ク實際生ジタ損害ヲ填補スルニ非ズシテ一定ノ金額ヲ支払フモノデアラカラ
損害保険デハナイ、然シテ現ニ我が國ニ於テハ傷害保険ハ尋常口損害保険ニ近イ
経営ヲ取ツテキルガ故ニ傷害保険会社が之レヲ兼営シテキル併シテ傷害保険ニ
於テ疾病者又ハ遺族ニ対シテ長期ニ亘ル年金ヲ與ヘルト云フガ如キ契約方法ヲ
採ツタトスレバ尋常口生命保険ニ近キ経営トナツテ生保会社ノ経営ニシタ方が適
当カモ知レナイ又カノ自動車保険ハ傷害保険ノ性質ヲ主トシテ或立シテキテ之
レ又亦ニ種ノモノニ属ス我が國ノ法律上ノ區別ハ前述ノ如クデアアルガ今若シ保
險事故ニアリテ分ケルナラバ火災保険、疾病保険等トナリ又被保険物ニヨリテ
分ケルトキハ家屋保険、船舶保険等トナリ又事故ノ生ズル場所ニ依リテ生ズル
場合ハ海上保険、陸上保険等トナル、併シ之等ノ區別ハ少シモ実益ガナイ、実
際ノ保険事業ニテハ種々ナ便利ナ名称ヲ用ヒテキル、併シ学術的研究ニ於テハ
人事保険ト財産保険トニ區別スルヲ普通トス
人事保険トハ人ノ生命、身体又ハ人事ノ關係ニツイテ保険ヲナスヲイフ、ソノ
中特ニ労働階級ヲ對象トスルモノヲ労働保険又ハ社会保険ト云フ事ガアル、之

レニ対シ一級世人ニ対スルモノヲ普通保険ト云フ事ガアル人事保険ノ主ナルモノハ生命保険デアル、之レハ人ノ生存又ハ死亡ヲ保険事故トシテ行フモノデア
ル、従テ之レヲ分類スレバ生存保険ト死亡保険ト生死混合保険トニ分ル死亡保
険ノ中デ終身同ヲ約束スルモノハ終身保険ト云フ、又一定期内ノ死亡ヲ保
スルモノヲ定期保険ト云フ生存保険ハ一定ノ年金ニ違シテ尚生存スルモノニ
定ノ金額ヲ與ヘルモノデソノ用途ハ貯蓄金、營業資金等ニ当ルガ最も普通デア
ルカラ俗ニ之レヲ資金保険ト云フ、ソノ一種ニ徴兵保険ガアル、之レ又入營者
ニ対シテ一定ノ金額ヲ支払フモノデアアルカラ入營ノ時並ニ生存ト云フ以外ニ入
營ナル条件ノ附加シタモノデアアル、又年金保険ハソノ與ヘル金先ヲ定期的ニ與
ヘルト云フ点ガ一ツノ特色デアアルガ矢張り一種ノ生存デアアル、生死混合保険ト
ハ俗ニ養老保険ト云ツテ一定ノ年金ニ於ケル生存者又ハソノ年金並ニ死亡セル
者ニ保険金ヲ與ヘルノデアアルカラ定期保険ト生存保険トヲ一契約ノ中ニ結ビツ
ケタモノデアアル近年ニ至リ疾病条項付生命保険、屬者保險附生命保険等ト云フ
ガ如キ人ノ生死以外ノ他ノ条件ヲ附加スル傾向が多クナツテ末々、例ハ前着
ハ前記各種ノ生命保険ニ附ケ加ヘテ若シソノ契約ノ有効期間中ニ疾病ニ陥ツタ

ナラバ或ハ保険料ヲ免除シ或ハ疾病期間中療養ノ意味デ一定ノ年金ヲ支給スル
或ハ痲疾ニ陥レバ直ニ死亡ト同視シテ保険金ヲ支払フト云フ種々ノ方法ガ行ハ
レテキル
後者ハ前述各種ノ死亡保険ニ附加シテ若シモ傷害ノ爲ニ死亡シタルトキハ保
金ノ二倍ヲ支払フト云フガ最も普通ノ形式デアアルカラ、俗ニ之レヲ倍額支払保
険ト呼ブ、ソノ理由ハ死亡保険契約ニ附加シテ傷害保険契約ガアツテ若シ傷害
ニ依ツテ死亡シタルトキハ兩条件ガ同時ニ成立スル故ニ自ラ保険金ガ二倍シテ
現ハレルノデアアル生命保険ノ一種ニ簡易保険ガアル之レハ中産階級以下ニ対シ
テ保険料ヲ支払イ易イヤウニ工夫シタモノデアツテ我が國デハ月掛ケ、吹米デ
ハ週掛ケトナシ特ニ果金人ヲ選ハシ少額ノ掛金ヲ集メル、之レ以外ニ調査ヲ省
キ契約ヲ簡便ニシ且ツ費用ヲ省クト云フ点ニ特色ガアルノデ一般ノ原則ハ生命
保険ト異ナラナイ、従ツテ吹米デハ一般ニ之レヲ民業トシテ斗ルガ我が國デハ
特ニ之レヲ政府ノ独占事業トナシ逓信省及ビ朝鮮總督府ニ於テ之レヲ行ツテキ
ル、又吹米デハ団体保険ト云フモノガ近年盛ニナツタ之レハ一事業ノ備主ガソ
ノ従業員ノ福利施設トシテ備主ノ負担トシテ従業員ヲ一団トシテ保険ニ付スル

ノデアル時トシテハソノ保険料ヲ勞賃共同負担トシテキル事ガアル併シテ死亡ノ保險ガ普通デアルガ時ニハ年金保險ヲモ併セ行フ事ガアル。所謂労働保險トハ労働者階級又ハ経済上之レト同視セラルベキ階級ニ對シテ或ハソノ保險ヲ強制シ或ハ國家其ノ他ノ公法人カラ補助金ヲ與ヘテソノ發達ヲ助長シ保險料ノ支払ハ多クハ勞賃共同負担トシテ而モ之ヲソノ俸給ノ中カラ控除シテ必ムト去フ便宜ナ方法ヲ採ツテキル所ニソノ特色ガアル經濟生活ノ最モ不安ナ労働者階級ノ生活安定ニ特ニ心掛ケタモノデアル而シテ之ヲ細分スルト疾病、負傷、出産等ニ備ヘル健康保險ト養老又ハ疾病ニ備ヘル老殘保險ト遺族ノ爲ニスル死亡制度ト失業ノ際ノ生活ニ備ヘル失業保險トニ大別シ得ル傷害保險ハ我が國ニ於テヤ、盛ニ行ハレテキル前述ノ生命保險ノ中ニ附加サレタモノハ單ニ死亡又ハ疾病ニ関スルモノデアルガ今此處ニ傷害保險トシテ独立ニ行ハルモノハ更ニソノ内容ガ広クナツテ傷害ノ爲ニ生ジタ凡テノ身體的事故ニ對シテ相當ノ支払ヲナスモノデアル、勿論ソノ條件ニハ保險契約ノ定ムル所ニ依リ異ナル訳デアルガ概シテ去フナラバ死亡者ニハ一定金額ヲ支払ヒ特ニ重大ナル傷害ハ之レヲ死亡ト同視シヤヤ重大ナル傷害ニハ死亡ノ場合ノ一定割合ノ金額ヲ與ヘ又

療養ノ費用ニハ実費又ハ一定金額ヲ支払フヲ普通トス自動車保險ナルモノハソノ内容ニ種々ノモノヲ含ミ或ル物の損傷ヲ填補スルコトモソノ内容ノ一部デア
ルガ最モ普通ニ生ズル事故ハ契約者又ハオネニ生ズル身體的傷害ニ對スル保
險又ハソノ損害賠償ノ責任ニ對スル保險デアラクラ實際ニハ損害保險ニ最モ近
イモノデアル我が國ニテハ人事保險トシテ生命保險ト傷害保險ガ普通保險トシ
テ行ハレテキルデアル労働保險トシテハ内務省デニ種ヲ行ツテキル一ツハ工
場及ビ鉱山ノ労働者ノ爲ニ強制シテ健康保險ヲ行ツテキルソノ大部分ハ内務省
ガ各府県ノ警察部ヲ通ジテ經營シテキルガ他ノ一ハ谷地ニ存在スル健康保險組
合ヲシテ自治的ニ行フ事ヲ認メテキルオニノモノハ土木建築等ノ事業主ガ業務
上ノ災害ニ對シテ権利義務ヲ法律上負ハサレテキルニ對シテ之ヲ強制的ニ保
險セシメテキル所ノ労働者災害扶助保險デアアル西洋ニ於テハ疾病保險等ガ民業
ニ對スル保險デアツテ財産上ノ損害填補ヲ目的トスルモノデアル、ソノ主ナル
モノハ左ノ如シ

一、火災保險

火災ノ危険ニ対シテ財産ヲ保険スルモノデアル、ソノ内デ工場、倉庫、家
 屋ノ如キ物ヲ保険スルヲ不動産保険ト云ヒ商品、原料品、家具ノ如キモノ
 ニ対スルヲ動産保険ト云フソシテ五木ヲ目的トスルモノヲ特ニ森林火災保
 険ト云フ、我が國ノ保險会社ノ中デハ三十四以下ト云フガ如キ小額ノ契約
 ヲ専ラ行ツテキル会社ガアル之レヨリ國保險又ハ動産保險ト名ヅケル事モ
 アル但シ此ノ場合ニ於ケル動産保險ト云フハ前述ノトハ異ナルモノデアリ
 單ニ小額ノ保險ト云フ意味デアリソノ会社ハ動産モ不動産モ共ニ取扱フモ
 ノデアル

二、運送保險

広イ意味ノ運送保險ト云ヘバ運送中ニ生ズル種々ノ危険ニ対シテ財貨ヲ保
 險スルモノデアル之レヲ陸上運送保險ト海上運送保險トニ區別シ得ル前者
 ハ單ニ運送保險ト我が國デ呼ンデキル然ルニ后者ハ單ニ海上保險ト称セラ
 レ船舶及ビ積荷ヲ海難ニ対シテ保險スルモノデアル

三、硝子保險

商店ノ卸店ニ用ヒラル、ガ如キ高價ナ硝子及ビソノ他ノ硝子製品ノ高價ナ

四、汽罐保險 (Steam Boilers Guarantee)

モノニ就イテソノ破損ニ対シテ保險スルノデアル
 コレハ蒸氣汽罐ノ破損ニヨリテ生ズル損害ニ対スル保險デアル

五、自動車保險

コレハ自動車又ハ自動自転車ノ破損、火災並難等ニヨル損害並ニソノ運送
 ニ依リテ生ズル損害賠償ノ責任等ニ備ヘルモノデアリ實際ニ於テハ傷害保
 險ノ性質ノ濃厚ナル事前述ノ如シ近年ニ至リ自動車ノ為ニ生ズル事故多ク
 ナリ損害賠償ヲ支払ヒ得ザル運送者ガ屢々生ジ被害者ノ保護ガ不充分デア
 ル事實ニ刺戟サレテ、スイス、アメリカノ一、二ノ市府等ニ於テ自動車保
 險ヲ強制保險トナシ之レガ無ケレバ運送者トシテ與ヘナイ事トシテキル例ガ
 アル尙多數ノ國ニ於テ之レガ一問題トナツテキル

六、信用保險

我が國ニ於テ信用保險ト稱セラルルモノハ Fidelity Guarantee Ins-
 urance デアル使用人ノ金銭上ノ不正行為ニ因リテ債主ノ受ケタ損害ヲ
 補填スルモノデアル之レヲ身元保証ノ代リニ用フル事ガアル

七、債権保険

コレハ取引先ノ支払不能ノ危険ニ備ヘルモノデ *Credit Insurance*
 ト云ハレテキル之レヲ直訳シテ信用保険ト云フ事モアツテ前記ノ *Fidelity*
Insurance ト紛シイモノデアリ近來各國ハ外國貿易ヲ振興スル手段ト
 シテコノ保険ニ対シ特別ノ政策ヲ施シツ、アリ我が國ニ於テモ輸出補償法
 ヲ実施シテキル之レハ外國ニ於ケル荷受人ニ対スル手形ヲ銀行ガ割引シタ
 時ニ若シソノ手形債務者ガ支払不能ニ陥ツタラバ手形割引銀行ガ取ル損
 害ヲ政府ガ補償スル方法デアル之レニ因ツテ銀行ハ安心シテ手形ノ割引ヲ
 行フ従ツテ自ラ貿易ニ関スル金融ガ円滑ニナリ輸出ヲ奨励スル結果トナル

八、盗難保険

コレハ商品ヤ家具ノ盗難ニ具ヘルモノデアリ

九、農業保険

広義ノ農業保険ト云ヘバ農業ニ関係アル各種ノ保険ヲ總括スソノ中ニハ農
 作物ニ対スル雹害又ハ霜害ノ保険モアル或ハ原因ノ如何ヲ問ハズ一放ニ收
 穫ノ減少ニ対スル秋義ノ農業保険又ハ收穫保険ガアリ或ハ家畜ノ損害ニ対

一〇、再保険

スル家畜保険モアル我が國デハ牛馬ノ死亡ニ対スル損害ノ保険ガ家畜保険
 ノ名ヲ以テ家畜保険組合ニ於テ行ハルソノ再保険ヲ農林省デ行フテキル又收
 穫保険及ビ森林火災保険ハ目下政府ニ於テ調査中デアリ

如何ナル種ノ保険タルヲ問ハズ、保険者ガ被保険者ニ対スル保険金支払
 ノ責任ヲ他ノ保険者ニソノ一部又ハ全部ヲ保険セシムルモノガ再保険デア
 ル火災保険ヤ海上保険ノ如キ巨額ナモノニアリテハ常ニ再保険ニ依ツテ危
 險分散ガ行ハル

以上ハ現ニ我が國ニ於テ行ハレテキルモノヲ述ベタガ此ノ外吹木ニ於テハ無数
 ノ保険ガ行ハル之レニ因リテ経済生活ノ安定ニ貢献シテキル

保険ノ效用

保険ハソノ種類ニ依ツテ各ソノ效用ヲ異ニスルガ故ニ詳細ハ各種ノ保険ニツ
 イテ特別ノ研究ヲナス事ヲ要ス此所ニハ全体ヲ通ジテ特ニ着シイ若干ノ点ヲ選
 ブルニ止ム

一、 保険ハ経済生活ノ安定ヲ計ルモノデアリ又家庭ビ実業ノ経済ヲ確固タル基礎ノ上ニ立タルモノデアアル、予算生活ノ可能デアアル事ハ経済生活ヲ確ニスル一ツノ点デアアルガ保険ハ不確定ナ損害ヲ定ジテ一定ノ保険料ノ負担トナラシムルモノニシテ一ツノ確定的ナ支出項目タラシムルモノデアアル一方カラ見レバ災害ノ発生後ニ於テ原状回復ヲ可能ナラシムルモノデアアルカラ経済生活ノ危慮ヲ除キ経済活動ヲ絶ヘズ継続セシムルモノデアアル、之等ノ点ガ保険制度ノ根本的ナ效用デアアル併し尚次ノ如キ種々ナル效用ノ存在スル事モ注意セネバナラヌ

二、 財貨ノ担保力ヲ発生又ハ増加セシメ以テ金融ノ便ヲ得シムルモノデアアル、之レハ火災保険、海上保険運送保険等ニ就イテ特ニ著シイモノデアアル、被保険物ヲ担保トスル場合ニハ金融が容易ニ得ラルル船ヲ担保トスル金融建物ヲ担保トスル場合海上又ハ陸上運送中ノ貨物ヲ担保トスル荷為荷等ノ如キハコノ效用ヲ明ニ示シテ斗ルモノデアアル、森林ヲ担保トスル金融、如キ森林火災保険アルヲ以テ始メテ得ラルル小型ノ漁船ノ如キハ未ダ保険ガナイカラ金融ノ担保トナリ得ザル事ガ水産業者ノ一ツノ悩ミデアアル之等ノ点ヲ考

三、 ヘテ山村又ハ漁村ノ振興作トシテ政府ハ之等ノ保険ヲ立案中デアアル大ナル金融資本ヲ市場ニ提供スル事、保険会社ハ各人カラ少額ノ保険料ヲ徴収スル之レガ多クノ人ノ手ニ分散セラ斗テハ金融資本トシテノ働キヲ為サナイガ保険会社ノ手ニ集マレバ多額ノ金トナリコノ働キヲ為スニ至ル、即チ保険会社ハ銀行、信託会社ト共ニ三大金融機関トシテ財界ニ勢力ヲ有ス殊ニ後述ノ如キ理由ニ依リテ巨額ノ資金ガ会社ニ蓄積サレル

四、 災害ノ予防ヲ助クル事元末保険ハ災害ノ結果トシテ生ゼル損害ニ対スル設備ニシテ消極的ナ效用ヲ有スルモノデアアルガ保険会社ハ損害ノ発生ヲ少クスル事ニ利害ヲ有スルカラソノ予防ニ力ヲ注ギ随ツテ積極的ノ力ヲ持チ未スモノデアアル、例ヘバ生命保険ニ於ケル健康診断又ハ巡回看護等ニ力ヲ盡スガ如キ又火災保険会社ノ協会が各地ノ火災予防ニ努力スルガ如キソノ一例デアアル

五、 社会同感ノ解決ヲ助クル事、社会同感ノ根本ニ振ハルノハ経済同感デアアル然ルニ保険ハ経済生活ノ安定ヲ得サセテ、然テ社会同感ヲ根本的ニ解決スルモノデアアル、コノ点カラシテ文明諸国ニ於テハ社会同感ノ必要トナルニ

従テ之レト正比例シテ各種ノ社会保険即チ労働保険ニカヲ注イデキル

私営保険業ノ監督

現代世界各國デハ保険業が公益ニ関スル事大ナルモノアルヲ認メテ之レニ嚴重
ナ監督ヲ加ヘテキル英國又ハ單純ナ公示主義デアルガ国家ハ保険業者ニ事業報
告ヲナサシメ之レヲ公表スル事ニ依ツテ利害關係者自ラソノ事業ノ成績ヲ判断
スル便宜ヲ與ヘルニ止メテキル、然シソノ他ノ文明諸國ハ保険業ニ實質的ナ監
督ヲ加ヘテ事業開始ノ時ノ免許ヲ給メトシソノ后序ニ事業ノ内容ニ立入ツテ監
督ヲナシ必要ノ場合ニハ解散ヲ命ジ得ル权限ヲ有シテキル我ガ國ニ於テハ明
治三十三年ニ保險業法が定メラレテ始メテ之レニ勸告ヲ加ヘル事トナレリ後四
十五年ニ大改正が加ヘラレソノ後モ總ヘズ小改正が加ヘラレテ今日ニ及ンデ居
ル、ソレト同時ニ保險業法施行規則が定メラレテ詳細ノ規定ヲナシテキル我ガ
國ノ保險業法ハ凡テノ保險事業ニ適用ガアル從ツテ例ハバ保險業者相互ノ關係
タルニ過ギナイ、再保險事業ノ如キモ政府ノ監督ヲ受ケル事トナツテキル凡テ
ノ保險事業ハ政府ノ免許ヲ受ケネバ營業ム事ヲ得ナイ而シテソノ保險者ハ株式企

社又ハ相互会社ニ限ル事トナツテキルソノ資本金モ事業ノ財政的基礎ヲ確ニス
ル爲ニ十万円以上ヲ必要トシテキルガ之レハ明治三十三年頃ノ実状ニ照シテ定
メラレタ制限デアツテ現在デハ内規ヲ以テ違ニ高イ制限ヲ定メテキル保險会社
ハ他ノ事業ヲ兼營スル事ヲ得ズト定メラレテアル之レハ他ノ事業ニ依ル盛衰ガ
保險事業ニ影響ヲ及ボシ之レガ爲被保險者ノ利益が害サレル事ヲ恐レテキルノ
デアル、ソノ結果トシテ保險会社ハソノ事業ト直接ノ關係ガアリ而モコレヲ兼
ネル方が有利デアルト考ヘラレル如キ事業サヘモ行イ得ナイ但シ保險会社ハ一
ツノ金融事業デアルが故ニソノ財産ノ利用ノ爲ニ当然行ハルベキ行為ハ保險事
業ノ内容ノ一部ト考ヘラレテ保險事業ノ性質上当然ニ許サレテキル例ハ企業
ノ貸付不動産ノ所得及ビソノ利用等ノ如キハ多クノ会社ガ之レヲ營ンデキル、
又保險会社が生命保險業ト損害保險業トヲ兼營スル事ヲ禁止シテキル、之レハ
前述ノ如ク生命保險契約が長期ニ及リ而モ被保險者ノ爲ニ保險料トシテ收メラ
レタ巨額ノ企業ヲ安全ニ保護スル事が生命保險業ノ性質デアラソノ事業ヲ
安全ニシ損害保險ノ方面カラ往ズル意外ナル財政的結果ヲ生命保險ノ方ヘ及ボ
サナイ爲デアル、但シ所謂才三種ノ保險ノ地位ヲ如何ニスベキカニ就イテハ前

述ノ所デアル思フニ此ノ場合ニハソノ事業ノ性質ヲ見テ長期ニ亘リ且ツ保費料ヲ次沖ニ蓄積スルガ如キ性質ノモノナリヤ短期ノ契約ニシテソノトキ限り契約關係ガ打切ル事ノ出来ル性質ノモノデアルカ否ヤ一因テソノ所屬ヲ定メルガ適宜デアリマス、保險会社ノ業務ハ商工大臣ノ監督ニ屬シテキル監督官廳ハ連々ノ命令ヲ発シ会社ヲシテソノ事業ノ報告ヲナシシメ会社ノ業務及ビ財産ノ状況ヲ検査シ必要ノ場合ニハ業務ノ停止又ハ營業免許ノ取消ヲモ爲ス事ガアル保險会社ノ資産ハ之レニ依リテ保險契約上ノ責任ヲ果ス爲ニ必要ナモノナル歟ソノ投資ハ確實デアアル事ヲオートシテソノ範圍内ニ於テ成ルベク材料ニ行ハネバナラヌ又從ツテ先ズ会社設立ノ免許ヲ申請スルトキニハ財産利用方法ヲ記シタ書式ヲ提出スルヲ要ス後ニ之ヲ変更スルニモ政府ノ許可ヲ要スル又保險業法施行規則十六條及ビ十七條ニ制限ヲ加ヘラレテキル即チ國際證書及ハ無制限デアアルガソノ外ノ投資ハ一方面ニ会社資産ノ五分ノ一以上ヲ集中サセル事ヲ禁ジテキル之レハ危險分散主義ヲ考慮シタ爲デアアル併シテト云フ制限ハ尙立キニ夫スルガ故ニ政府ハ内規ヲ以テ更ニ制限ヲ加ヘテキル例ハ巴城ル会社ノ株券ノ過半數ヲ買取ルガ如キ場合ニハ例ヘソノ金額ガ保險会社ノ資産ノ一五十分ニ過ギザル

ニモセヨ前述ノ營業ノ禁止ノ規定ノ精神ニ反スル結果ニナル
 保險会社ノ計算ニ就イテ他ノ一般会社ニ比シテ特異タルモノニ之ヲ選ブソノ尤モ著シイノハ責任準備金デアアル保險会社ハ保險契約ノ種類ニ依リテ各ノ事業年度ノ終リニ存在スル契約ニ就イテ責任準備金ヲ積立テル事ヲ要ス即チ会社ノ負債対照表ノ負債(貸方)ノ部ニ之レヲ列シテ金額ヲ計シタル上テ利益又ハ損失ヲ計算スル事ヲ要スコノ責任準備金アルガ故ニ会社ハ被保險者ニ対シ契約ニ依ル責任ヲ果スノデアル随ツテ之レニ相当スル金額ガ会社ノ資産ノ部ニ存在スル訳デアラガ之レハ会社自身ノ資産デハナク被保險者ノ爲ニ貯蓄セルモノト考ヘネバナラヌ責任準備金ヲ分析スルト未至還保費料ト保費料積立金ニ分レル損害保險ニアリテハ前者大デアアルガ生命保險会社ニアリテハ前者ヲ稱ソテ斗ル未至還保費料ト云フノハ一事業年度ニ於テ收取ツタ保費料ノ中ソノ年度以後ニマタガツタ保費期間ニ付スル保費料ニ相当スルモノト云フ例ハ昨年ノ九月一日カラ年間ノ火災保費契約ヲナシ一年分ノ保費料ヲ收取リタルニソノ会社が十一月ノ末ニ決算ヲ行フナラバコノ契約ニ付スル四ヶ月ノ保費期間ハ既に全額シタルヲ以テ保費料ノ全額ハ之レヲ会社ノ前持ト爲シ得レドモ残リノ八ヶ月分

即チ保費料ノ8/12、未 還ノ契約期間即チ翌年度ノ危険ヲ負担スル為ニ要スル
 保費料トシテ之ヲ次ノ年度ニ繰越ス事ヲ必要トス隨ツテ之レノ会社ノ負債
 (貸方)ノ部ニ掲ゲテ計算スル事ハ当然ナル生保ノ如キ長期ニ亘ルモノニア
 リテハ一年ト云フモノヲ一ツノ保費期間ニ相当スルモノト爲ヘテ右ノ計算ヲ行
 フ事ヲ要スル、サテ右ノ計算ハ夫ハ一ノ契約ニ就イテ計算スベキナルガ多
 數ノ契約ニ就イテ見レバ自ラ平均ノ法則ガ働クモノト爲ヘラレルカラ年保保費
 料ニアリテハ、之ヲ未還保費料ニ當テルトスフガ如キ計算方法ヲ取ルノデア
 ルコノ場合ニ注意スベキ事ハ損害保費会社ニアリテハ再保保費ガ複雑ニナル
 カラ未還保費料ノ計算ニ就イテモ之レヲ考慮ニ入レル隨ツテ保費業法施行規
 則ニ七条乃至九条ニ詳細ナ規定ガアル又損害保費会社ニアリテハ例ハ大々
 災等ニ対スル準備金ト云フガ如キ特別危険積立金ヲ持ツ事ガ会社ノ事業ヲ確ニ
 スル所以ナル然ルニ之レヲ設クルトキハ税法ノ關係ニ於テ不利ヲ生ズルカラ
 之レヲ避ケル為ニ未還保費料ヲ法定ノ最小限度ヲ越エテ積立ラナシ之レヲ以
 テ事実上ノ特別危険積立金ニ當テテナルノガ普通デアアル

四〇

昭和八年二月二十三日 印刷
 昭和八年二月二十八日 發行
 神田區駿河台三丁目七番地
 編輯兼 岩 瀬 利 吉
 發行人
 發行所 廣 文 社
 不許 複製

終

